

中井正一の戦後の活動に関する文献

平 川 千 宏

はじめに

本誌の32号(1986.10)に、「中井正一著作目録」を掲載してもらった。今号では、中井正一に関する文献を紹介したい。ただし、全期間にわたるものは分量も多いので、今回は、中井の戦後の諸活動と理論、すなわち尾道市立図書館長時代の地方文化運動と知事選、国立国会図書館副館長就任後の図書館活動や図書館論について書かれたものに限った。それらを十分に理解するためには、中井の戦前の活動や、美学・哲学論をも視野に入れることが必要だが、それらについては、さし当って鈴木正編『増補美学的空間』(新泉社 1982.4)巻末の「関係文献目録」を参照されたい。

なお末尾に「中井正一著作目録」発表以後に発見された中井の著作を〈中井正一著作目録・補遺〉としてつけ加えた。そのうち戦前のもの二編は、和歌山県橋本市在住の北川久氏のご教示によるものである。

また付録として、中井の告別式における金森徳次郎館長の弔辞を掲げる。これは、今回初めて活字になるものであり、当館職員所蔵のものによったが、当館総務課の『前国立国会図書館副館長中井正一の死亡関係文書』にも収められている。年月を示す数字を算用数字に改めた他は、原文のままである。

凡 例

1. 全体を、ほぼ中井の年代順に以下のように分けた。

尾道市立図書館長時代

国立国会図書館副館長就任の経緯

副館長在任中の記事

死亡記事・追悼文・中井賞関係

中井の図書館活動・図書館論について

人物回想(副館長時代)

中井の著書の解説・書評

2. それぞれの中の配列は、文献の発行年月順にした。
3. 記載事項は、著者、標題、掲載紙誌・図書名、(発行所)、発行年月(日)、掲載頁である。必要に応じて、そのあとに注記をつけた。

〈尾道市立図書館長時代〉

- 木島 始 師よ —1947年・中井正一氏に— 『木島始詩集』 未来社 1953.5
p. 17~19 注：筆者は戦後、岡山の旧制六高時代に中井の教えをうけた
- 山代 巴 中井先生のお話 『民話を生む人々』 岩波書店 1958.9 p. 3~5
- 山代 巴 ある農民運動の組織者 —農民運動期の中井正一— 「思想の科学」 9号
1959.9 p. 42~49 注：「農民運動期の中井先生」として『美と集団の論理』1962に
再録
- 鈴木 正 会議の論理の開拓者 —中井正一について— 「思想の科学」 23号
1960.11 p. 61~69 注：『日本の合理論』1961に再録
- 豊田真毅 中井先生 —その活動のなかから— 「集団の論理」 1号 1962 発行
月・掲載頁未詳
- 寺岡一義 <忍ぶ草 6~7> 中井正一先生を偲ぶ 「山陽日日新聞」 1962.8.25~
26 注：筆者は中井の後の尾道市立図書館長
- 木島 始 中井さんのトレーニング 『中井正一全集 第3巻』付録「中井正一 1」
1964.8 p. 11~13
- 山代 巴 中井正一氏の手びき 『武谷三男著作集 第6巻』解説 勁草書房
1969.6 p. 387~391 注：「苦難の時期をささえたもの」として『連帯の探求』1973
に再録
- 山代 巴 <展望 現場の目> ぬけがけ根性の巢 「展望」 145号 1971.1
p. 56~57
- 森本輝郎 『戦後の足跡 石原尾道市長物語・上巻』 山陽日日新聞社 1972.1
尾道市立図書館長に迎う 美術哲学者中井正一氏 p. 16~17
中井正一氏の文化活動 p. 51~53
楠瀬常猪知事を再選 中井正一氏が敗れる p. 154~155
注：初出は「山陽日日新聞」1971に連載
- 稲葉誠也 図書館を拠点とした文化運動 —中井正一の場合— 「思想の科学」
210号 (別冊6号) 1972.4 p. 61~69
- “地の塩”の記録 —中井正一と地方文化運動— (1)~(10) 「中国新聞」 1976.1
- (1) 政治を日なたへ 1.5
 - (2) 美学者として 1.6
 - (3) 現実に根ざす思想 1.7
 - (4) 敗戦前後 1.9
 - (5) 労文協の結成 1.12

- (6) 夏季大学 (上) 1.13
- (7) 夏季大学 (下) 1.14
- (8) 知事選出馬 1.16
- (9) “草の根”選挙 1.19
- (10) 一隅を照らす 1.20
- 山代 巴 中井正一先生のこと 内田千寿子著『叢書・民話を生む人びと 1 一九四五年八月からの出発』解説 而立書房・1977.4 p.282~294
- くひろしまの地下水脈(5) ふくらむ夢 忍従脱皮へ女の戦い 「朝日新聞 (備後版)」1978.1.10
- く風土と伝統の中で 地域文化を考える (30~31) 尾道 「中国新聞」1978.7.4~5
- 江川栄一 中井正一 —その実践と論理の発展に関する一考察— 『法学周辺 昭和53年度単位取得論文集』1979.7 p.2~27 注:掲載誌は立教法学会発行
- 東條文規 〈研究ノート〉実践家としての中井正一 「四国学院大学論集」44号 1979.7 p.100~115
- 藤原浩修 戦後の地域における文化運動 —三原文化協会を中心として— 「芸備地方史研究」123号 1979.9 p.1~12
- 藤原覚一 『ある図書館の戦後史』築地書館 1979.11 注: p.12~15に中井についての記述あり。著者は元三原市立図書館長
- 藤原浩修 戦後広島県の労働者文化運動 —広島県労働文化協会について— 「広島県史研究」5号 1980.3 p.41~58
- 久保邦明 戦後における青年教育の源流 —中井正一の思想と実践— 「進ゼミ情報」1980.6 (春夏合併号) p.108~113
- 山代 巴 城間功順君の手紙から 『中井正一全集 第4巻』付録「中井正一 4」1981.5 p.2~6
- 中村美智子 中井先生の知事選挙を手伝った小娘たち 『中井正一全集 第4巻』付録「中井正一 4」1981.5 p.6~12
- 古川 博 広島における中井正一 『中井正一全集 第4巻』付録「中井正一 4」1981.5 p.12~16
- 石井 敦 戦後公共図書館実践史(1) 「図書館史研究」1号 1984.8 p.1~10
注: p.3~4に「尾道市立図書館—市民大学」の項あり
- 豊沢 肇 日本の知識人の“戦中”と“戦後” —中井正一の場合— 「史観」112冊 1985.3 p.16~30
- 佐竹信朗 中井正一先生の思い出 「図書館だより」133号 1985.11 p.1 注:掲載誌は広島市立中央図書館発行
- 森 信蔵 人間は人間を馬鹿にはならない —中井正一の地方文化運動— 『尾道市立図書館開館七十周年記念誌 創翔の譜』尾道市立図書館 1986.2 p.46~62

〈国立国会図書館副館長就任の経緯〉

金森徳次郎〔中井正一に関する覚書〕 執筆年月日不詳 2枚 注：当館憲政資料室所蔵「金森徳次郎関係資料」のうち

国立国会図書館長選任に関する件 「第2回国会参議院図書館運営委員会会議録」 第4号 1948.2.10 p.1~2

中井氏内定 国会副図書館長 「中国新聞」 1948.2.12

国立国会図書館長並びに副館長任命に関する件 「第2回国会衆議院図書館運営委員会会議録」 第5号 1948.2.24 p.1

決らぬ国立図書館副館長 中井正一氏の内定に異議 「新夕刊」 1948.3.6

国立国会図書館副館長の任命に関する件 「第2回国会衆議院図書館運営委員会会議録」 第8号 1948.3.25 p.1~3

金森、中井両氏内定 国会図書館正副館長 「世界日報」 1948.4.16

合同審査会開会に関する件 「第2回国会衆議院図書館運営委員会会議録」 第11号 1948.6.7 p.1~2

羽仁五郎 国立国会図書館設立の主旨とその経緯 「第1回図書館研究集会記録」 1963.3 p.2~11 注：p.5~7に関連記事あり。『図書館の論理』1981に再録

羽仁五郎 国立国会図書館の創立 「図書館雑誌」 59巻8号 1965.8 p.303~308 注：p.307~308に関連記事あり。『図書館の論理』に再録

西水孜郎 初代館長・副館長任命の経緯 『国立国会図書館支部図書館外史』 支部図書館館友会 1970.8 p.21~24

羽仁五郎 〈戦後自伝「予見者の書」 第11回〉 参議院の日々……わが対決と抵抗と 「現代」 9巻11号 1975.11 p.240~268 注：p.245~250に関連記事あり。『自伝的战後史』1976に再録

館長及び副館長の任命 『国立国会図書館三十年史』 国立国会図書館 1979.3 p.59~62

酒井 悌 副館長就任まで 『中井正一全集 第4巻』 付録「中井正一 4」 1981.5 p.16~19

羽仁五郎 わが図書館論 『図書館の論理——羽仁五郎の発言』 日外アソシエーツ 1981.6 p.7~71 注：p.16~47に関連記事あり

佐藤晋一 国立国会図書館・中井副館長就任までの経緯 一特に新村猛氏の証言を中心として一 「茨城大学教育学部紀要（教育科学）」 31号 1982.3 p.49~65

〈副館長在任中の記事〉

〈落丁集（こぼればなし）〉 「日本読書新聞」 1949.4.20 注：家を建てるのに金のない中井に、人柄にほれこんだ大工が金なぞいらぬといった話

〈ぶらり訪問〉 読書復興のために 国会図書館副館長・図書館協会理事・中井正一 「全国出版新聞」 1950.10.1

〈出版界・時の主役〉 中井正一氏 一新しい図書館の構想一 「出版ニュース」 150号

1951.1 中旬号 p.3

〈東京通信〉 中井正一氏夫妻激励の会 「週刊朝日」 66巻54号 1951.12.30 p.19

〈プロフィール〉 中井正一 「出版ニュース」 186号 1952.1 中旬号 p.3

中田邦造 中井正一 「図書館雑誌」 46巻5号 1952.5 p.26

〈死亡記事・追悼文・中井賞関係〉

中井正一氏 「朝日新聞」 1952.5.18夕刊 注：死亡記事

酒井〔悌〕 副館長の死を悼む 「組合ニュース」 34号 1952.5.20 注：掲載紙は国立国会図書館職員組合機関紙

金森徳次郎 「弔辞」 1952.5.25 タイプ印刷 3枚 注：本編末尾に掲出

〈余白〉 「図書新聞」 1952.6.2 注：中井の経歴について

中井理事長急逝 「図書館雑誌」 46巻6号 1952.6 p.4

〈録音板〉 副館長中井正一氏の急逝 「びぶろす」 3巻6号 1952.6 p.21

青木 茂 中井正一先生を偲ぶ 「土」 22号 1952.6 p.11~12 注：掲載誌は金光図書館報

中井理事長の死を悼む 「図書館雑誌」 46巻7号 1952.7

中井正一氏略歴 p.6

有山 崧 弔辞 p.6 注：『有山崧著作集 2』1970に再録

羽仁五郎 告別のことば p.7~8 注：『図書館の論理』に再録

寺岡一義 追想 p.8

桑原〔善作〕 故中井正一氏を憶う 「あづま」 16号 1952.7 (p.1) 注：掲載誌は福島県立図書館報

「中井正一記念事業会趣意書(案)」〔日本図書館協会〕 1952.7 謄写印刷 1枚

中井記念賞授与 「図書館雑誌」 47巻7号 1953.7 p.31~32 注：図書館大会記録のうち

第2回中井賞 「図書館雑誌」 48巻7号 1954.7 p.7

中井賞, 林賞授賞式 「図書館雑誌」 51巻7号 1957.7 p.270 注：図書館大会記録のうち

〈中井の図書館活動・図書館論について〉

蒲池正夫 国立図書館への道 「図書館雑誌」 53巻2号 1959.2 p.38~41

住谷雄幸 中井正一と図書館・その一 『国立国会図書館業務懇談会資料第2号 職場の声から——自由論集』 国立国会図書館業務懇談会 1963.11 p.41~46 注：『図書館の戦後』1989に再録

浜田義行 現代社会における図書館 “中井正一の足跡” 「図書館短大新聞」 1号 1966.3.1

稲葉誠也 中井正一の図書館論 「図書館学会年報」 13巻1号 1966.8 p.1~5

佃 実夫 異端と正統——戦後21年・図書館の思想 「図書館雑誌」 60巻8号 1966.8 p.317~320 注：『知識の設計』1973に再録

中井正一の遺産 「図書新聞」 1969.11.15

酒井 悌 〈専図協20年の歩み その3〉 国立国会図書館からみた専門図書館協会の結成 「専門図書館」 50号 1972.11 p.61~64 注：専門図書館協議会結成時における中井の事績に言及

永田治樹 「司書制度を検討する会」——その後 「館燈」 16号 1973.4

p.140~141 注：同会における中井の図書館論の検討。掲載誌は名古屋大学附属図書館報

加藤一夫 影を照らす視線で…… 「広場」 24号 1973.6 p.5~6 注：『記憶装置の解体』1989に再録。「広場」は国立国会図書館内「広場の会」発行のミニコミ誌。同誌の24号から27号までは中井正一の特集。

住谷雄幸 中井正一と図書館・その二 —副館長をめぐる抗争— 「広場」 25号 1973.7 p.1~3 注：『図書館の戦後』に再録

堀 恵子 もうひとつの図書館 —尾道時代の中井正一— 「広場」 25号 1973.7 p.3~5

住谷雄幸 中井正一と図書館・その三 —図書館論の底流にあるもの— 「広場」 26号 1973.8 p.1~4 注：『図書館の戦後』に再録

伊藤松彦 中井正一ノート(一) 「広場」 26号 1973.8 p.4~6

鈴木 正 組織論から図書館像へ——中井正一「『壇』の解体」をめぐる「UP」 2巻10号 1973.10 p.23~26 注：「広場」24号の中井正一特集に言及

住谷雄幸 中井正一と国立国会図書館 「品野台（名古屋学院大学附属図書館月報）」 6巻4号 1973.10 p.69~73 注：『図書館の戦後』に再録

丸山泰通 中井正一の軌跡と図書館 「図書館雑誌」 67巻12号 1973.12 p.545~548

北口利昭・他 〈座談会〉 中井正一の図書館論とその実践をめぐる 「広場」 27号 1974.6 p.1~8

稲葉誠也 中井正一の文化機構論 国立国会図書館 「思想の科学」 247号（別冊9号） 1974.11 p.9~24

加藤一英 中井正一の哲学・美学思想と図書館思想 「図書館学」 30号 1977.3 p.45~52

酒井 悌 年頭に思う 「国立国会図書館月報」 202号 1978.1 p.2~3

吉田道彦 図書館屋二題 「一夏会報」 21号 1978.〔10〕 p.18~21 注：金森徳次郎と中井のこと。掲載紙は鶴見大学図書館学講習一夏(いちげ)会発行

伊藤松彦 自由の精神 協会選定と中井正一 「図書館雑誌」 73巻11号 1979.11 p.613~614

岡村敬二 〈表現〉としての図書館——中井正一の軌跡にそって 「大阪府立中之島図書館紀要」 16号 1980.3 p.33~46 注：『表現としての図書館』1986に再録

佐藤晋一 中井正一研究 —図書館論を中心として— 「茨城大学教育学部紀要(教育

- 科学)」 29号 1980.3 p.117~133
- 佐藤晋一 中井正一と図書館法 「茨城大学教育学部教育研究所紀要」 13号 1981.3 p.121~130
- 〈黙示'81〉 崩れんとする中井正一の構想 「新文化」 1981.7.2
- 東條文規 ひょっとして、学術情報システムは、中井正一さんの構想の実現ではないか、と考えているみなさんへ! 「大学の図書館」 1巻11号 1983.2 p.257~258
- 佐藤晋一 中井正一における〈時間機能〉としての図書館論 「茨城大学教育学部教育研究所紀要」 15号 1983.3 p.123~130
- 岡村敬二 中井正一と図書館論 「季刊としょかん批評」 2号 1983.4 p.121~136 注:『表現としての図書館』に再録
- 広瀬智生 一枚のカード 「なにわず」 90号 1983.9 p.1 注:中井の言葉を引き、第2国会図書館、オンラインによるネットワーク化等に言及。掲載誌は大阪府立中之島図書館報
- 鈴木 正 中井正一の回心——図書館にかけた夢想 「図書館雑誌」 82巻8号 1988.8 p.461~465
- 加藤一夫 一隅を照らす光のように——中井正一と国立国会図書館 『記憶装置の解体——国立国会図書館の「原点」』 エスエル出版 1989刊行予定
- 〈人物回想(副館長時代)〉
- 〔小林 勇〕 中井正一 一編集者の回想録(25) 「図書」 39号 1952.12 p.9 注:『遠いあし音』1955に再録
- 能勢信二 ある日の出来事 —NDL山岳会設立のエピソード— 「灯影」 10号 1962.10 p.3~4 注:中井にすすめられて山岳会が誕生したいきさつ。掲載誌はNDL(国立国会図書館)山岳会機関誌
- 徳村杜紀子 私の父 『美と集団の論理』付録 1962.12 p.1~2
- 岡田由紀子 父の思い出 「第1回図書館研究集会記録」 1963.3 p.11~13
- 桑原武夫 ベンガルの槍騎兵 『中井正一全集 第3巻』付録「中井正一 1」 1964.8 p.1~3 注:副館長就任当時の中井との交遊について
- 依田義賢 裸の正一ここにあり 『中井正一全集 第3巻』付録「中井正一 1」 1964.8 p.5~6 注:熱海の旅館での思い出
- 岡田由紀子 日々に新たに……93年 —祖母中井千代を偲んで— 「母の友」 230号 1972.7 注:徳村杜紀子との共著で「日々に新たに生きて……」として柴田道子編『日本のお母さんたち』1972に再録
- 岡田由紀子 父の底ぬけの明るさ 荒正人他著『私の心に残る父の教育』 明治図書出版 1973.2 p.97~115
- 庄野 新 中井さんのこと(その一) 「広場」 24号 1973.6 p.1~3
- 稲村徹元 花火の会から「図書館年鑑」へ —中井正一をめぐる断想— 「広場」 24号 1973.6 p.3~5

庄野 新 中井さんのこと (その二) 「広場」 25号 1973.7 p.5~7

能勢信二 NDL山岳会創設のころ——150回例会に寄せて 「灯影」 150回記念例会
特集号 1979.11 [p.1] 注:前出「灯影」10号所収のものと同趣旨の文章

江草一郎 中井正一君の憶い出 「国立国会図書館月報」 234号 1980.9 p.17~19

布川角佐衛門 中井さんの思い出 『中井正一全集 第4巻』付録「中井正一 4」
1981.5 p.19~23

〈中井の著書の解説・書評〉

『論理とその実践 —組織論から図書館像へ—』(てんびん社 1972.11) について

中井 浩 『論理とその実践』〔解説〕 p.8~9, 24~27, 66~70

〈読書メモ〉 中井正一の掌 「図書館新聞」 1973.1.13

江藤文夫 中井正一の“実践”を見る —私の座右の論文になる— 「出版ニュース」
931号 1973.3下旬号 p.12

佃 実夫 時代をみごとに先どりした論集 知識人論・組織論・情報論の原点に立
ち戻るために 「週刊読書人」 1973.4.2

鈴木 正 〈書評〉 「品野台」 6巻3号 1973.7 p.67~68

石山 洋 〈書評〉 「図書館界」 25巻2号 1973.8 p.81

稲葉誠也 〈書評〉 「中部図書館学会誌」 15巻2号 1973.11 p.38~40

『中井正一全集 第4巻 文化と集団の論理』(美術出版社 1981.5) について

中井 浩 『中井正一全集 第4巻』 解題 1981.5 p.363~371

森崎震二 明快な構成 図書館論 心洗う明るい文体・透徹した発想 「図書館新聞」
1981.7.4

前川恒雄 図書館の日常を励ましつづける論理の詩 —「中井正一全集」の完結に
寄せて— 「出版ニュース」 1222号 1981.7中旬号 p.8~9

田中隆子 今日の課題, 真理がわれらを自由にする —同時期に刊行された前編と
後編— 「図書館雑誌」 76巻2号 1982.2 p.97~99 注:羽仁五郎著『図書館
の論理』と『中井正一全集第4巻』の書評

〈中井正一著作目録・補遺〉

花火 「日出芸林」 6号 1932(昭7).7

生きること、美しさ 「東丘」 8号 1937(昭12).9 4p (頁付なし)

労働の尊厳 「労文タイムス」 1号 1947(昭22).6.1 注:掲載紙は広島県労働文化
協会機関紙

序 『図書館雑誌総索引 明治40年—昭和25年』 日本図書館協会 1951(昭26).12
p.iii

なお「著作目録」で“発行年月等未詳”とした次の論文は以下のように判明した。
読むという言葉 「月刊・学校図書館」(大阪市教育委員会社会教育部文化課) 15号
1950(昭25).12 p.5

〈付録・中井正一告別式における金森徳次郎氏の弔辞〉

弔 辞

謹んでここに、国立国会図書館副館長中井正一君のみ霊に申し上げます。

君は、大正14年京都帝国大学文学部哲学科を卒業せられるや、文学部哲学会の委員として「哲学研究」の編集に従事し、さらに文学部講師として美学を講じ、その研究に専念せられました。ついで、昭和20年6月尾道市立図書館長に任じ、よく地方文化の振興に貢献せられるとともに、兼ねて広島地方労働委員長、広島県労働文化協会長、中国地方生産監察委員会長、中国地方鉄道局行政監察委員長等を囑託せられ、終戦直後の混乱期にあたって、よく労資双方の民主的秩序の確立に寄与せられました。

その後、憲法に誓約する、日本国の民主化と、世界平和への寄与とを実現するために、新たに国立国会図書館の開設をみるや、昭和23年4月、君は直ちに初代副館長として着任し、わたくしを佐けて、図書館創設の激務に当ることとなりました。惟うに、国立国会図書館創設の構想は、図書館事業の世界的権威者たちの深思熟慮の結実にもとづくものでありまして、新しい図書館は、導入せらるべき技術の清新なる点、樹立せらるべき規模の雄大なる点、管理運営さるべき組織の複雑なる点、ひとりわが国図書館人の経験を絶したものであるばかりでなく、世界的に見ても例の少ないものでありました。この国立国会図書館の創設は、わが国の図書館界にとっては、まさしく無から有を生み出す難事業でありまして、設立の勧告者である米国図書館使節団においても、この事業の成否に関しては、少なからざる危懼の念が抱かれておったのが偽わらざる実状でありました。この難事業完遂のために特に招聘せられた君は、わたくしを補佐し、新しい組織の樹立と、高い技術の導入、その運営と企画管理のために、渾身の情熱を捧げて呉れました。文字通り寝食を忘れ、一身を挺して、これを美事にやっつてのけられたのであります。

君は、何よりも理想と熱の人でありました。仕事をするにも、人と交わるにも、つねに理想と熱をもっていたされました。君はまた、真理を重んじ、芸術を愛し、よき程に酒を嗜みました。酔えば呵々大笑し、哲学を談じ、芸術を語り、まことに人間味豊かなひとでありました。君のこの青年のような美しい心情は、館の内部にも、館の外部にも、君を親愛する人々をつくり、それらのひとびとの胸に、清新な夢と、熱い血潮を吹き込み、図書館創設の難事業を比較的容易ならしめたのであります。

君は、平素すこぶる頑健でありました。空の晴れた日、若き職員とともに

運動場でスポーツに興じる君の姿は、今なおありありと眼前に浮かびます。その頑健な君が、かりそめの病に臥してから、わずか三カ月有半、今日この悲しみに会おうとは、われわれの誰が想像したでありましょう。君の急逝は、わが館にとってきわめて大きい損失であります。図書館創設以来、日夜難事業を共にしてきたわたくしにとっては、さらにさらに深い悲しみであります。

君は家庭にあっては、古風なくらいに孝心深い息子さんであり、心やさしい御主人であり、よきお父さんでありました。年老いたお母さんのため、幼いお子さんたちのために、あのように深い愛情を注がれた君の、この突然の逝去をおもくと、わたくしの胸は、みりみりとしめつけられる思いがいたします。われわれは、君の図書館につくされた並々なぬ功績に対して、かぎりない感謝の念を捧げるとともに、君の残された御家族に対しても、できるかぎりのことをいたしたいと念じております。

以上中井正一君の霊に、わたくしたちの、かぎりない感謝と、つきることのない惜別の情を述べました。そして、今なお創業の途上にある国立国会図書館の前途に君の影響の多大なることを感じています。

では中井君、さようなら。

昭和27年5月25日

国立国会図書館長 金森徳次郎

(びらかわ・ちひろ 参考課)